

言 格 を導く 経営

天下に機あり、務あり。

この世の中に生じることができ、それに対処するには適切な機会があり、それに応じた務めがある。

機を知らざれば務を知ること能わす。

あた

適切な機会がわからなければ、時局に応じた務めも知ることが出来ない。

時務を知らざるは俊傑に非ず。

しゅん けつ

あら

それぞれの場に応じてなすべき仕事ができないようでは、才徳のすぐれた人とはいえないのである。

明治維新の精神的指導者 吉田 松陰



画像提供：松陰神社

吉田 松陰 よしだ しょういん

1830年～1859年。幕末の志士、思想家、教育者。萩藩士の家に生まれ、山鹿流軍学の家学を継ぎ長州藩兵学師範となる。長崎へ遊学し、その後江戸に出て佐久間象山に入門し、西洋砲術と蘭学を学ぶ。ペリーが下田に来航したときに密航を試みるが失敗し、幽閉された。幽閉中に松下村塾を開き、高杉晋作や伊藤博文、山縣有朋ら多くの維新で活躍する人材を育成した。